

M.S. 2020年卒 地域マネジメントコース

## こんな学生時代を過ごしました

私の大学時代はいわゆる“コロナ禍”での4年間でした。

地域に出て学ぶことが特徴である地創においては、どうすれば活動の場を作れるか、試行錯誤の日々が長かったことを覚えています。特に、所属していた広報実習では、感染拡大を徹底したでの開催となった「夏季オープンキャンパス」が印象深いです。私は全体統括の立場でしたが、2日間で全4回、参加者同士が距離を保った状態での学群紹介、グループワーク、質疑応答、全て手探りながらも、テーマに沿った装飾にこだわったり、ストーリー仕立ての映像を差し込んだり、実習生全員が“イベントのプロ”として本番に臨んだ結果、参加者からの満足度の高さが、アンケートから数字で見えたときはみんなで喜び合いました。

また、眞鍋ゼミでは、市内の高校を中心に総探(総合的な探求学習の時間)の時間をお借りして自分たちで授業の内容を組み、SDGsや自分のキャリアについて考える時間を実施しました。私自身、人前に出て話すことは苦手でしたが、ここで場数を踏み、先生やメンバーと練習を繰り返して、“間の取り方”や“言葉選び”の質を高めました。これらの学びを活かしつつ、個人としても学内外問わず実践の幅を広げました。特に関心の高かった「地域コミュニティ」の分野では、行政の皆さまと連携して、子供から高齢者の方まで遊べる自作のボードゲームで「自治会・町内会」の活動を周知し盛り上げる取り組みを行いました。その他に、29歳以下の若者が市の課題解決を行うワークショップに参加し、他大学の学生とも関わる機会をつくりました。

上記のような取り組みを重ね、大学4年次に、当時の大学生では唯一、「北九州市・新ビジョンの策定に係る有識者」として選んでいただき、地創生としての意見を市政に直接伝えることができた経験は、私の地創時代の集大成だったように思います。

## 卒業後こんなキャリアを歩んでいます

地創生として学ぶ中で「地域の良いものや価値がどうすれば多くの人に伝わるのか」ということを考えました。その考えが、今の「SNSマーケティング」という職種の選択に繋がります。後に上司となる方を知り合いからご紹介いただいたのですが、そこで『地球の歩き方北九州市版』の発売を主導した仕掛け人である、弊社の代表が同郷(北九州出身)ということを知り「これはご縁かもな」と感じたことも会社選びに繋がりました。オフィスが東京の渋谷にあるため、大学卒業を機に上京しました。社会人でいきなり遠くでひとり暮らしという環境の変化に戸惑うこともありましたが、それ以上に、ここで力をつけて地元貢献したいという想いが上回りました。

入社後は、日本を代表する大企業のSNSコンサルティングやマーケティング支援を行っています。もう少し分解すると、投稿企画から、分析・レポート担当を担います。身近なSNSですが、人を滞在させ、反応をもらうために試行錯誤の日々です。

また、地元土産であるキタキューコレクション(ガチャガチャ)の発売イベントも一部担当しており、少しずつですが北九州への恩返しもできています。

今後のキャリアとして、地元・北九州市で仕事をしたいという想いは変わらずあります。北九州に限らずですが、地方はまだ知られていない“魅力”や“価値”があると思います。だからこそ、今後も“地創マインド”を持って学びと挑戦を続けてまいります！

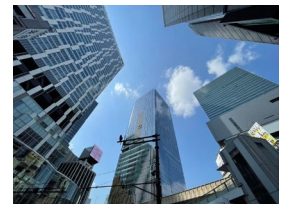
## 現役生へのメッセージ

今の地創生の特権は、先輩方が開拓してくださった北九州市というフィールドを使って幅広く挑戦できることにあると思います。市内の大半の場所は“地創生”という言葉で受け入れてもらえることができる。だからこそ、少しでも関心の持った場所には自分から積極的に出向いてみてください。

(2025年11月30日執筆)



入学前にこの動画を見た！という方もいるかもしれませんが、広報実習生として内田先生や眞鍋先生との対談動画を制作しました。



オフィスは渋谷にあります。高層ビルが立ち並ぶ景色にまだ慣れません、北九州とは違った景色や刺激を楽しみつつ挑戦しています！